

令和7年度 第3回豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 会議録要旨

○日時 令和7年11月17日（月）15時～

○場所 豊川市役所議会本34会議室（本庁舎3階）

○議題

（1）第7次豊川市総合計画における重点事業の設定方法、評価手法について

（2）豊川市シティプロモーション戦略（案）について

○出席者（敬称略）

（委員）

◇出席8名

竹田 聡 愛知大学地域政策学部 教授 ◎会長

豊田 圭祐 豊川青年会議所 理事長

牧野 延全 ひまわり農業協同組合営農部 次長

井澤 孝 豊川信用金庫地域支援部 部長

平賀菜由美 豊川市観光協会 専務理事兼事務局長

宮地 清和 豊川ビジョンリサーチ 監事

田中 言羽 いちのみや子育て広場”にこ” 代表

世古 紘子 中日新聞豊川通信局 通信局長

（事務局）

企画部長、次長、企画政策課課長補佐はじめ企画政策課員3名、元気なとよかわ発信課長はじめ元気なとよかわ発信課職員3名

議題（１）第７次豊川市総合計画における重点事業の設定方法、評価手法について（資料１）

事務局から資料に基づき説明

（委員）

資料１－１の２について、総合戦略会議の開催時期を前倒しし、早期に事業改善を進めるとのことですが、確かにこれまでは会議から反映されるまで時間がかかり、内容がどの程度反映されているか非常に掴みにくいと感じていましたので、この変更を非常にありがたいと思います。

加えて、我々の意見を事務局が一部抜粋する形でもいいので、担当課へのヒアリングなど、直接やりとりすることができればと以前から思っていました。この場で出た意見というのは、担当課としては直接声を聞いているわけではないですし、やりとりをしていない部分がありますので、内容によってはもう少し事業に反映してほしいというものもあります。全部は難しいと思いますが、少しピックアップした形でそういうことが行われれば、より良い形で改善がされるのではないかと感じますので、ご検討いただければという要望です。

（事務局）

どのような形になるかわかりませんか、検討させていただきます。

（委員）

資料１－１の２について、令和８年度からは当年度の１０月に予算要求をするのは私も大賛成ですが、令和７年度までは会議の翌年度に予算要求というスケジュールだったことについて、デメリットはどんなことがあったのですか。

（事務局）

予算に影響のない内容については随時見直しができるのですが、予算執行が絡むような内容だと、これまでのスケジュールでは翌年度の当初予算に反映できませんでした。当初予算にないものですから、翌年度に事業に反映させるためには補正予算の編成なり他の予算からの流用なりという対応が必要になりますので、予算に反映させるまでに少し時間がかかってしまうということがデメリットになります。

（委員）

そうすると見直しが１年越しになってしまうので、先ほどのお話ではありませんが、若干話がぼやけてしまう可能性は高いですが、予算要求を当年度の１０月にすることにより、会議で出た意見への対応を明確にしていきたいということですね。

(事務局)

そうです。

(委員)

逆に言うと、予算要求したが予算を確保することができなかった場合についても、その状況を会議で報告していかないと、これまでと同じように意見の反映がぼやけたままで終わってしまう可能性がありますので、そういった対応もしていただけるとより良くなるのかと思います。

(委員)

資料1-1の1について、今回の議題として議論する内容が「重点業務の要件」ということで5つほど挙げられていますが、イメージが湧きません。例えば具体的にどのようなものか、決まってないかもしれませんがご説明いただきたいです。

(事務局)

「マニフェスト工程計画に位置付ける事業」については、記載のとおりです。「大規模建設事業及び大規模改修事業」については、一宮地区の公共施設再編や本庁舎建設といった、事業費の大きな整備事業などが想定されます。「政策間、施策間の連携により推進する事業」については、分野を横断して複数の課で連携しながら実施するような事業を想定し、重点事業として位置づける予定であります。

(委員)

説明を聞いていて、第7次総合計画に定める7つの分野と5つの重点事業の要件がマトリクスのようになるのかと思ったのですが、これまでの総合戦略会議に総合戦略事業として出てきていた事業内容と、第7次総合計画の7分野は大分違いますし、重点事業も大分違うと思うのですが、総合戦略会議が大きく変わるイメージですか。

(事務局)

総合戦略会議の運営や評価対象とする事業の数などについて、そこまで大きく変わるイメージは持っていませんが、評価対象とする事業の内容は多少変わってくるのと思っています。

(委員)

資料1-2について、各施策のページ、見開きの右上のところに「事業例」と書かれていますが、この辺は今後決まってくるものと認識しているのですが、ここ

に書かれているのは「例」ということで、これから詰めていくイメージですか。

（事務局）

総合計画全体の計画期間は10年となりますので、基本計画にある各施策の中では例として掲載しています。実施計画は計画期間を3年として毎年ローリングで策定することになりますので、そちらの中で具体的な事業を示していくことになります。重点事業については、実施計画に位置付ける事業の中から要件に該当する事業を選別して位置付けることを想定しています。

（委員）

資料1－2について、145ページの農業分野など、担当課と関係団体との擦り合わせはどの程度行われているのかと気になりました。調整をする機会は作ったのですか。

（事務局）

事務局としては、担当課が適宜調整しているという認識でおります。

（委員）

総合戦略会議では、委員は個人の視点で意見を述べる部分も多いかと思います。今回の議題は、総合戦略会議の内容を積極的に反映していこうという姿勢だと思うので、意見を事業に反映させていくということになれば、農業分野なら農協とか、他の分野では商工会議所など、関係団体とうまく調整して取組方法の見直し等を進めていただければと思います。

（委員）

資料1－1の1について、先ほど質問があった重点事業の要件のうち、「一定額以上の事業費を要する事業」についてですが、括弧書きの中に書かれている「金額の基準は、市民意識調査における「満足度」と「重要度」を踏まえて設定。」について説明いただけますか。

（事務局）

資料1－2の中に市民意識調査の結果をまとめているページがありますので、そちらをご覧ください。24ページをご覧ください。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、豊川市の市民意識調査は2年に1度実施しております。市民意識調査にある質問項目につきましては、総合計画の政策、施策の分野と連動する形で、市民から意見をいただくようになっており、25ページに書いてある項目が総合計画の中で定める施策の分野に対応する質問となっています。次のページをご覧くださいますと、質問に対する回答の内容を点数化し、

A B C Dの4つのゾーンに分けてプロットしてあるグラフが27ページにあり、各ゾーンの説明が26ページにあります。例えばAゾーンですと、市民が感じる満足度が高く、重要度も高いという区分で、「今後も現在の水準を下げることなく着実な取組が求められる」としており、このような形で施策に対する市民意識の状況を分類しております。特にCゾーンに位置付けられる施策は、市民が感じる重要度が他の施策に比べると高いにもかかわらず、市民が感じる満足度が低いということになり、ゾーンの説明にありますとおり「従来の施策を改善することや新たな施策を検討するなど、他のゾーンの項目に優先した取組が必要」という整理をしております。この分類を踏まえて、資料1-1にあります「金額の基準は市民意識調査における各行政分野に関する「満足度」と「重要度」を踏まえて設定する」という部分なのですが、Cゾーンにあたる分野の事業については他のゾーンにあたる分野の事業よりも基準の金額を下げて設定し、多くの事業を重点事業に位置付けることで、委員の皆様からより多くのご意見をいただけるような形で重点事業を取りまとめたいと考えております。

(会長)

それでは、本日の意見を踏まえて、引き続き評価手法の検討などを進めてください。

議題（２）豊川市シティプロモーション戦略（案）について（資料２）

事務局から資料に基づき説明

（委員）

今回の肝と思われる「とよかわ応援アンバサダー（仮称）」について、もう少し具体的な内容を教えてほしいです。どのような人を想定していますか。

（事務局）

現在、制度設計をしている状況です。今回のわかものワークショップを通じて、若者が今後も豊川市に関わりたいという強い思いを感じました。また、イベントサポート制度で活躍されている方や豊川市に対する熱烈的なファンがいます。そのため、対象は市民に限らず、豊川市を応援したいという個人・企業・団体も含めて認定制度を考えています。年度末までに立ち上げ、新年度からスタートできればと考えています。活動内容としては、豊川市に関する情報発信を想定しており、発信方法については様々な方法で、ご自身の活動の領域の中で進められるような制度にできればと想定しています。

（委員）

アンバサダー候補も様々います。若者、イベントサポート制度の利用者、豊川市の熱烈的なファンの３者にしてもレベル感が違い、ひとつにまとめると運営が難しいと感じます。階層をいくつかに分けて、それぞれの役割や機能を持たせると良いと思います。学生とコアなファンでは経験値や温度感に差があるため、解像度を上げながら、アンバサダーの中でも分けができると良いと思います。

（事務局）

いろいろな主体が存在するのも事実です。来年度から実施する会議は、市民ミーティングやアンバサダー会議等を予定しています。グルーピングやカテゴリー分けも良いと思いますが、様々な主体が一堂に会して交流・情報共有する仕組みがあっても良いと考えています。いただいたご意見も参考にしながら、制度設計をしていきます。

（委員）

イベントサポート制度を活用している人ですら、一堂に会して意見交換することがないため、同じ方向性を持つ人で集まり、何かを生み出すのも大事だと思うので、カテゴリー分けのご検討をお願いします。

「豊川市を好きな人を増やす」という将来目標について、裾野を広げるという方向性を感じており、先ほどのアンバサダーの候補で例示された３タイプの方々への関わり方が見えづらいと感じました。見直し後かもしれませんが、好き

になってくれた人へのアプローチと、新たに豊川市を知る人との関わり方がもう少し見えると良いと思います。

(事務局)

アプローチ方法や関わり方については、取組を進めながら検討していきます。

(委員)

分かりやすい図と表現で、初めて見ても分かりやすい資料だと感じました。21ページの図案が特に分かりやすいと感じました。

今後ロゴを考えるとのことでした。観光協会でもいろいろなロゴを募集した際、地元の業者にアタックする方法、全国紙の景品が当たるようなところにアタックする方法など、いろいろトライしました。最低でも1万円の景品がないと、提案のクオリティが下がる印象があります。何か豊川ブランドでも協力ができたらと思います。

来年度から進めるにあたり、新たな事業も実施すると思いますが、目新しい目的がないとどう進めていくかが分かりづらいと感じます。今後、外部団体が連携できる関わり方があれば、早めに情報提供いただけるとありがたいです。

先日、豊川青年会議所が開催した豊川高校での学生によるプレゼン大会に参加しました。人口減少が進む中で、どのように地域を盛り上げるかを数字やグラフなどを使ってプレゼンされており、素晴らしかったです。3か月間、豊川市のことを研究したと生徒の方が言っていました。こういった、市内に多くある高校と連携しながら、プレゼン大会などができると思います。シティプロモーション戦略を見て、高校生がグループになって応募できる場があると理想だと感じました。今ご紹介した豊川青年会議所が開催した活動について、詳細な内容のお話をお願いできればと思います。

(委員)

開催のきっかけは、豊川市のまちづくりに対してこれからを担う若者の意見を取り入れたいという思いから、私がOBである豊川高校に協力を依頼しました。Ⅰ類、Ⅱ類コースの1～2年の生徒の皆さんに協力していただき、8チームに参加してもらいました。「自分たちが住むためにはどんなまちがいいのか」をテーマにプレゼンしてもらいました。プレゼン内容については、豊川駅のロータリーにある商業施設に人が滞留できるカフェがあるといい、日本列島公園を活用できないかなど、様々な視点で提案してもらいました。短期間ではあったものの、「まちづくり」というテーマのもと、実現可能性が問われるものもありましたが、若者の見方・考え方を教えてもらうことができました。豊川市が実施していたわかものワークショップのように、学校等との連携もできると、学生がより自分事として捉え、シティプロモーションにも上手く反映されていくと思います。

す。

(事務局)

今ご紹介いただいたような取組を継続的に行っていくことが必要だと考えているため、戦略策定後は、市内の高校などと、そういう場を継続的に作っていきたいと考えています。また、シティプロモーションは意見が言いやすい分野であるため、若者の発想やアイデアを幅広く聞き反映できるような活動に、まずは力を入れていきたいと考えています。

(委員)

これからの施策には若者の意見をくみ取って反映されていくと思いますが、結果がどう反映されているかが明確に伝わると、提案者の自信につながります。もっと提案しよう、もっと考えようという気持ちになるので、意識していただきたいです。

(委員)

シティプロモーションやPRを実施するとなると、今の環境では担当課との協力・連携がとりづらいです。これには、縦割りが関係しているかと思いますが、課によっても意識の差があるかと思います。どのようにして組織内でプロモーションに対する意識向上をしていきますか。

(事務局)

4ページや22ページに、関係課との連携やシティプロモーション意識の向上についての内容を含めています。36ページにも、庁内推進体制として庁内会議を位置付けています。現行戦略ではそこまで細かく掲載していませんでしたが、外部団体や市民との連携以上に、庁内での連携が課題だと考えています。庁内組織を立ち上げ、研修を行い、市役所全体で職員の意識を高め、各課のアンテナを高くすることで、連携して取り組むことができる体制を整えていきます。関係各課におけるシティプロモーションの意識を底上げしていく取組を、当課で率先してやっていくことになるだろうと考えています。

(委員)

市の職員からも多くのアンバサダー登録があると良いと思います。

(委員)

豊川市のホームページは変える予定がありますか。今、閲覧者の100%近くがスマホやタブレットで見えています。行政のホームページには2パターンあり、現在の豊川市のようなパターン、またはデザイン性のあるパターンがあります。ホ

ホームページは市の顔にもなるため、せっかくなのでホームページのデザイン変更も検討してもらえるといいのではないかと思います。

(事務局)

市ホームページは、10年以上使っていたものを昨年度の2月にリニューアルしたばかりであるため、しばらくはこのフレームで運用していく予定です。豊川市のホームページを見たときに、「行ってみたい」「きれいだな」と思ってもらえるような写真やコンテンツを載せるのも大事であるため、中身の分かりやすさにも配慮しながら、リニューアルしたホームページを活用していきたいと考えています。

(委員)

時代はSNSなのだなと感じました。本戦略にはマスメディアへの発信についての内容があまりないと感じます。しかしながら、元気なとよかわ発信課には、積極的にプレスリリースを出していただいております、感謝しています。

現在、新聞の力は落ちており、若い人たちの情報源はSNSが主です。発信ツールとして、新聞やテレビが非常に弱い状況であり、今後の10年を考えてもその力は落ちていく一方だと思います。

豊川市に配属された当初は、市内の知らない面を知ることができて面白かったですが、住むにつれて感動が薄れていると感じます。そのため、自分の中でもニュースとして発信する価値が低くなっていると感じています。このような中で、シティプロモーションでも取り組んでいく部分かと思いますが、自分たちが当たり前と思っていることが外の人にとっては当たり前ではないことを実感しています。新聞の力も衰えてはいますが、他の課も含めて情報発信をお願いしたいです。配付地域や紙面の確保などの問題で記事として取り上げることができないこともあり申し訳ないですが、ここで勤務している以上は豊川市を応援したいと考えています。当たり前になっているものでも発信をお願いしたいです。

(事務局)

当課と秘書課は記者クラブの皆さんとの関わりが深いです。こうした取組を他の課にも伝えつつ、市内の関係団体とも一体となって取り組んでいきたいと考えています。

(委員)

シティプロモーション戦略の策定にあたり、受託業者の方が関わっていますが、今後はどこまで関わってもらう予定ですか。できれば今後の方向性を整えるうえで、引き続き専門家が入ると効果が高いと思います。

(事務局)

策定支援であるため、計画をつくる業務の支援として委託しています。次年度以降も支援に携わってもらうためには予算確保が必要になるため、回答は差し控えますが、次年度以降の取組もイメージしながら、必要に応じて予算を獲得し、シティプロモーションに関する業務を進めていきたいと考えています。

(会長)

それでは、本日の意見を踏まえて策定を進めてください。

.....

【会議後意見書】

(委員)

【資料 1－2 P. 158, 159 など多数】

平成と H、令和と R など統一されていない箇所が散見される。

【資料 1－2 P. 28～】

アンケート調査結果の重要度が高まった印象がある。そのため調査内容は市の担当だけでなく専門家を入れてほしい。あわせて、JA や商工会議所、観光協会などの地域機関ともすり合わせをお願いしたい。

【資料 2－1 P. 24】

SNS に TikTok を追加してほしい。10 年と長い計画なので今の 10 歳代も中心になりうる。10 歳代が主に使用する SNS は TikTok なので今後の若者へのアプローチ策として入れてほしい。もしくは、基本方針 1 の※2 の SNS (X、Instagram・・・Podcast) の最後に「など」を入れてその他のツールも含んだ形にしてほしい。

【資料 2－1 その他】

このような企画は効果を上げる実践は難しい。実戦経験のある専門家を入れて本気でやってほしい (小山薫堂さんなど)

(委員)

【資料 2－1 P. 30】

「取組 1 豊川市の魅力を再発掘プログラム」中、関わる主体の地域の欄に観光協会を追記していただきたい。観光協会では、歴史を学ぶプログラム、特産品の製造見学・体験のプログラムを実施している。関係団体でまとめているのかもしれないが、P28、29 には関係団体とは別に観光協会と掲載されているため、違和感がある。